

## 第6回 場所格

教科書の該当ページ：34～35 ページ、44 ページ、53 ページ、73～74 ページ、110 ページ

**場所格** → 教科書第4課④、第5課⑥

フィンランド語には、既に見た{中で}格・{中から}格・{所で}格のように、場所を表わす格がたくさんあります。他にも{中へ}格・{所から}格・{所へ}格があり、これら6つの格は次のように分類することができます。

	静止位置(～に/で)	起点(～から)	着点(～へ)
中(空間)	{中で}格	{中から}格	{中へ}格
所/上(平面)	{所で}格	{所から}格	{所へ}格

{所から}格には語尾-lta あるいは-ltä がつきます。-lta と-ltä は母音調和によって決まります。{所へ}格には語尾-lle がつきます。

様々な格の形から格語尾を取り去ると語幹が得られます。語幹は、必ずしも主格の形と同じとは限りません。

{中へ}格は、語幹の最後の母音を延長し、その後に-n をつけて表わします。ただし、語幹が2つの母音で終わっている場合は、-h+最後の母音+n をつけます。

単数主格	単数属格	単数{中で}格	語幹	単数{中へ}格
talo(家)	tal <u>o</u> n	tal <u>o</u> ssa	talo-	taloo <u>n</u>
metsä(森)	metsä <u>n</u>	metsä <u>ssä</u>	metsä-	metsää <u>n</u>
järvi(湖)	järve <u>n</u>	järv <u>e</u> ssä	järve-	järvee <u>n</u>
suo(沼)	su <u>o</u> n	su <u>o</u> ssa	suo-	suoh <u>o</u> n

**疑問文：どこへ** → 教科書第6課③

場所がわからなくて、「どこへ」と訊きたい場合は、{中へ}格を疑問詞 mihin あるいは minne で置き換えて文頭に置きます。主語と動詞の語順は変わりません。

例) 列車はオウルに行きます。

Juna menee Oulun.

列車 行く オウル({中へ}格)

列車はどこへ行きますか？

Mihin/Minne juna menee?

どこへ 列車 行く

**場所格の用法** → 教科書第4課⑥、第5課⑤、第8課①③④、第11課②

場所格には、場所を表わす以外にも様々な用法があります。例えば、{中から}格は「～について」という意味も表わします。

例) 本はサウナについて書いてあります。 Kirja kertoo saunasta.  
本 述べる サウナ({中から}格)

また、「私としては」のように、意見や感情を抱いている人を表わすこともあります。

例) 彼はいいやつだと僕は思う。 Minusta hän on hyvä mies.  
僕({中から}格) 彼 だ よい 男

{所で}格は、keväällä「春に」、kesällä「夏に」、syksyllä「秋に」、talvella「冬に」のような季節や viime viikolla「先週」、tällä viikolla「今週」、ensi viikolla「来週」のような週、aamulla「朝に」、päivällä「昼間に」、illalla「夕方に」、yöllä「夜に」のような一日の中の時間帯を表わします。

また、{所で}格は、bussilla「バスで」、junalla「列車で」、kynällä「ペンで」、lusikalla「スプーンで」のように、手段や道具も表わします。

基数詞の{所から}格は、kolmelta「3時に」のように、「～時に」という時間を表わします。

{所へ}格は「誰々にとって」という意味を表わします。

例) 金曜日は私には好都合だ。 Perjantai sopii minulle.  
金曜日 好都合 私({所へ}格)

{所へ}格は、物の受け渡しの際の受け取り手も表わします。

例) ユッシはリーサに手紙をあげた。 Jussi antoi Liisalle  
kirjeen.  
ユッシ あげた リーサ({所へ}格) 手紙

**複数主格** → 教科書第4課⑧

主語が複数の時は複数主格形を使います。複数主格形は名詞・形容詞の語幹に-t をつけて作ります。主語が複数主格形になると、動詞は3人称複数形になります。

例) 犬が庭を駆けている。 Koira juoksee  
pihalla.  
犬(単数主格) 走る(3人称単数) 庭  
犬(複数)が庭を駆けている。 Koirat juoksevat pihalla.  
犬(複数主格) 走る(3人称複数) 庭